

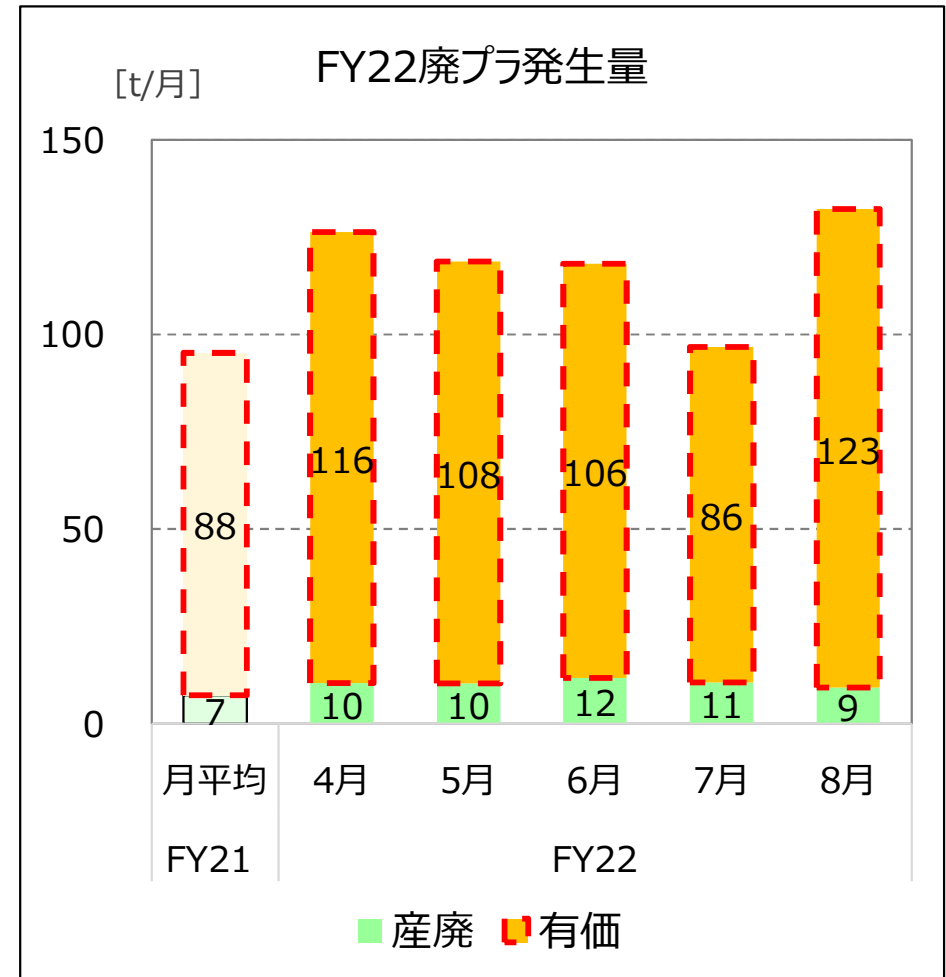
【廃プラスチック分別見直しによる産廃削減】

京セラ株式会社 鹿児島川内工場

【廃プラスチック分別見直しによる産廃削減】

①背景

- バーゼル条約等により、廃プラの海外輸出禁止
- 国内の廃プラが飽和状態
品位の高い廃プラが国内に流れ、価格下落
- 有価物業者より、買取不可の連絡
大半の有価物が産廃へ変更（10月搬出分より）
- 各廃プラの発生量は増産により増加傾向



有価物→産廃約110t/月増加の恐れ

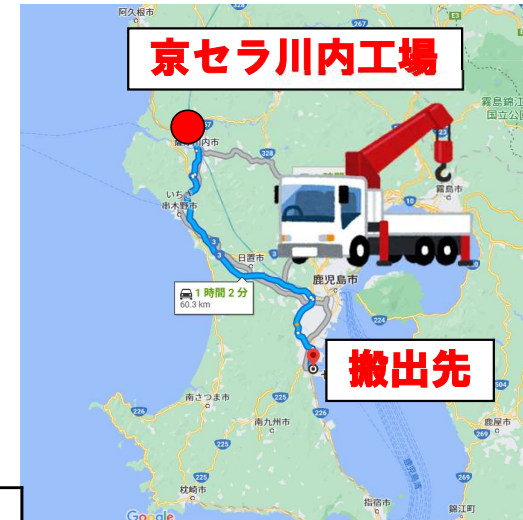
【廃プラスチック分別見直しによる産廃削減】

②対策検討



これまで・・・燃料や原料として有価物（運賃含む完全有償品）として処理業者買い取り

今後・・・リサイクルは継続するが、**運賃費用**（片道約60km）が捻出できず（運搬量:3~5t/車）**産廃**（運賃+処分費を京セラ負担）として、**処分委託**



**短期でできる
対策を選択**



対策案	具体的方法	課題	期間/難易度
分別見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・買取可能品へ分別 ・品位の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・市場ニーズ把握 ・分別レベル担保 	短 / 可能 中 / 可能
取引先開拓	<ul style="list-style-type: none"> ・新規有価売却先開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ・商流把握 	長 / 可能
発生量抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・部材見直し ・納入元へ返却 	<ul style="list-style-type: none"> ・工程/装置改造 客先認定 ・購入単価UP 	長 / 難
材質見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・部材見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・工程/装置改造 客先認定 	長 / 難

【廃プラスチック分別見直しによる産廃削減】



②対策

有価物業者と打ち合わせし、有価物継続の方法を検討

→分別方法の見直しにより、有価物としての買い取り継続

対策実施例

【見直し前】

①PET品



- 【産廃】PETロール
- 【産廃】PETフィルム
- 【産廃】PETトレー
- 【産廃】糊塗布ロール

②硬質系廃プラ



- 【産廃】硬質プラ
- 【産廃】ポリタンク
- 【産廃】塩ビ
- 【産廃】溶剤付プラ

【見直し後】

- 【有価】PETロール
- 【有価】PETフィルム
- 【有価】PETトレー

- 【産廃】糊塗布ロール
- 異物付**

- 【有価】硬質プラ
 - 【有価】ポリタンク
- 洗浄**

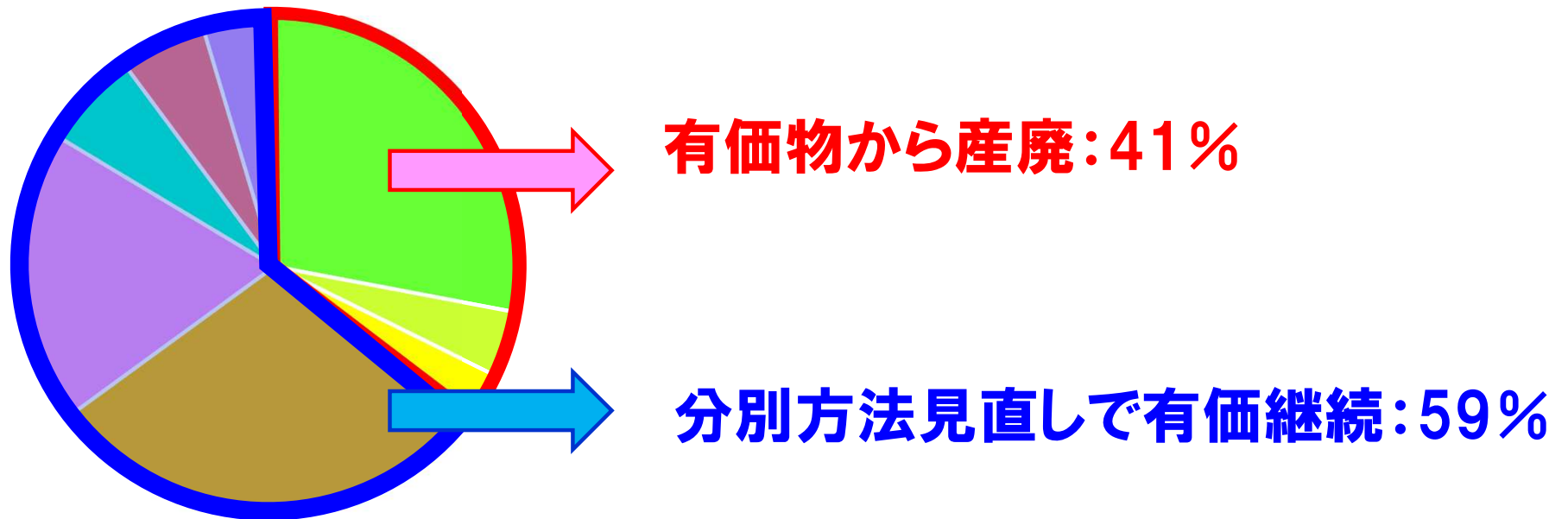
- 【産廃】塩ビ
 - 【産廃】溶剤付プラ
- 異物付**

【廃プラスチック分別見直しによる産廃削減】

③効果



FY22上期廃プラ排出内訳



FY22下期効果※10月より対策実施

産廃発生量 ▲328t
産廃コスト ▲9,840K円